

## ■ バックナンバーのご紹介

Vol. 1 特集	『地域における政策形成』	〈平成12年12月〉	Vol.21 特集	『地域産業の再生』	〈平成19年 8月〉
Vol. 2 特集	『最適な「地域」となることを求めて』	〈平成13年 4月〉	Vol.22 特集	『地域力を考える』	〈平成19年12月〉
Vol. 3 特集	『新四国創造』	〈平成13年 8月〉	Vol.23 特集	『「限界集落」への対応』	〈平成20年 7月〉
Vol. 4 特集	『地域における環境政策』	〈平成13年11月〉	Vol.24 特集	『過疎地域の自立活性化に向けて』	〈平成20年12月〉
Vol. 5 特集	『地域戦略・政策・ガバナンス』	〈平成14年 2月〉	Vol.25 特集	『地域とともに歩むプロスポーツ・ビジネス』	〈平成22年 2月〉
Vol. 6 特集	『市町村合併と地域社会』	〈平成14年 5月〉	Vol.26 特集	『文化遺産を活用した地域づくり』	〈平成22年11月〉
Vol. 7 特集	『人口減少社会を考える』	〈平成14年 8月〉	Vol.27 特集	『地域主権改革への対応』	〈平成23年 2月〉
Vol. 8 特集	『まちの機能と景観』	〈平成14年11月〉	Vol.28 特集	『地域における防災力の向上』	〈平成23年10月〉
Vol. 9 特集	『新しい地域社会の構築』	〈平成15年 3月〉	Vol.29 特集	『「真の地方分権」「真の地方自治」の実現に向けて』	〈平成24年 4月〉
Vol.10 特集	『ローカルエネルギーの展望』	〈平成15年 5月〉	Vol.30 特集	『スポーツ振興を通じた地域づくり』	〈平成24年10月〉
Vol.11 特集	『グローバル化時代の地域産業』	〈平成15年 9月〉	Vol.31 特集	『愛媛の地域政策・地域づくりへの提言』	〈平成25年 3月〉
Vol.12 特集	『新しいライフスタイルと地域』	〈平成16年 1月〉	Vol.32 特集	『ICTを活用した地域づくり』	〈平成25年12月〉
Vol.13 特集	『構造改革特区と地域再生構想』	〈平成16年 5月〉	Vol.33 特集	『地域の資源を見直す』	〈平成26年 3月〉
Vol.14 特集	『平成の大合併と地域自治』	〈平成16年 9月〉	Vol.34 特集	『地域内の未利用資源の循環を考える』	〈平成26年 9月〉
Vol.15 特集	『21世紀の農業』	〈平成17年 1月〉	Vol.35 特集	『人口減少社会を考える』	〈平成27年 3月〉
Vol.16 特集	『若年者雇用の危機』	〈平成17年 6月〉	Vol.36 特集	『地域の自然を守り、地域づくりに活かす』	〈平成27年 9月〉
Vol.17 特集	『道州制を考える』	〈平成17年12月〉	Vol.37 特集	『国際交流と地域づくり』	〈平成28年 3月〉
Vol.18 特集	『地域の危機管理』	〈平成18年 3月〉	Vol.38 特集	『これからの地域課題に対する政策提言』	〈平成29年 3月〉
Vol.19 特集	『南予地域を元気に（第一次産業）』	〈平成18年 6月〉		(財団設立40周年記念号)	
Vol.20 特集	『 ♪ (交流人口の拡大を目指して)』	〈平成18年12月〉	Vol.39 特集	『これからの観光と地域づくりの在り方』	〈平成29年10月〉

本誌バックナンバーは、当センターホームページで公開しています。

ECPR バックナンバー **検索**

<http://www.ecpr.or.jp/products-ecpr-backnumber/>

## ■ 編集後記

都市の若者が関係人口として地域と繋がることには、地域の支えになってくれることと共に、地域を新たな魅力を持った持続可能なものへと変化させる期待感があります。一方、地域の周辺の人々がすでに関係人口としてその地域と繋がり、地域を支えている例も数多く見られます。各地域が関係人口との繋がりを大切に、地域づくりをしていくことが重要になってきています。

関係人口は、いろいろな人と地域が多様な関係で関われる可能性を持っています。「関係人口と地域づくり」について、本誌がそれを考えるきっかけとなり、皆様に関心を持っていただくことができれば幸いです。(安井)

## Member (平成30年3月31日現在)

調査役 (副理事長)	青野昌司	研究員	中川裕貴
所長 (専務理事)	山本司	〃	河内勇人
特別研究員	水口和壽	〃	秋山元行
研究部長	白鳥和樹	移住コンシェルジュ	吉田一登
主任研究員	坂本清幸	事務員	板垣義男
研究員	久保光司	〃	西本美紀子
〃	安井良吾	〃	檜垣直子
〃	河田晋作		善家由佳